香川ニュース

第21号

発行所
香川自治会
広報委員会
印刷横浜プロジェクト
045(711)0672

香川のよりよい発展のために皆様のお力を

自治会長　埋金一郎

会員の皆さま、ご家族お揃いで元気に新春を迎えられたこととよろこび申しあげます。

まず迎春にあたって、過去一年間自治会の運営活動に対するみなさまのご協力に厚くお礼を申し述べます。

この香川も年々急速に発展し今や世帯数千六百余、六千人を数えるに至り、八・九年前に比べると倍増、市内八十余の地区の中でも、二つの住公団地を除けば、ズバ抜けていちばん大きな存在となりました。

しかし、人口、世帯数がただふえるだけでは、真の発展といえないのであって、そこに住む住民の生活に必要な社会環境の諸施設が、これに伴ってこそ、地域社会の真の発展であり、個人の幸わせもこれにつながるものでしょう。わが香川の現状は、年々かなり改善されてはきましたが、まだまだこの面の整備が追いつけないでいるのが実情です。

一方、香川の将来を展望しますと、現在既に隣接地にまたがって大規模な団地造成が進み、又数年後には、私鉄線の乗り入れ計画もあり、従来にも増して加速的に都市化が考えられ、そのための要素となる土地余力など、これを受け入れうる素地を十分に備えています。

さて、自治会では会員相互の扶助と連帯を基調とし、過去九カ月にわたって事業計画にもとづき、道路、排水、交通安全など、諸施設の整備促進に、鋭意努力してまいりましたが、十分とはいえないまでもかなりな成果をみており、更に今後とも残された身ぢかな諸問題の解決に、積極的に努力する決意です。そしてまた前にも述べたように、これから飛躍的な発展性を秘めたこの香川地区が、ほんとうの意味での住みよい町として、秩序ある発展を図っていくためには、先ず住民の一人一人が、街づくりに一層深い関心を持っていただくことが大切であり、それと共に自治会としても、今後の都市化に対する基盤整備の基本問題に、真剣に取り組み、住民自体の手による構想を練りあげて、これを基本として、強力な自治会組織を通じて市に要求し、市政の目、方向を、この香川にひきつけ実現するよう、最善の努力を続けていきたいと思います。何卒会員各位の一層のご協力と、ご鞭撻をお願いいたします。

浄見寺の山林に三橋家の旧宅移設

三橋一松氏の旧宅は、文政九年に作られた典型的な農家造りで文化財としての価値が高く評価され市の手で去る三月解体保存されています。

この建物の移設復元について市教育委員会で検討された結果、かねて好意的な土地提供を申し出て下さった堤の越前守の菩提寺である浄見寺の山林に内定しました。

工事は四七年度の当初予算に計上されるとの事ですが、来年度は不況気配があり、財政上の都合から予算化が危ぶまれていますが、三橋家の好意にこたえる意味でもこの計画の実現をつよく望むものであります。

古墳記念碑の建立決定

前号でおしらせした篠谷の山腹の古墳は、比類のない姿なので、その十数個の古墳群を原型のまま残せないかという意見が、郷土会の古老や識者の間に出ていたが、市で検討の結果、土壌がローム層の崩壊し易い性質のため、これをあきらめ、取りこわしとなった。出土品は県・市関係者や北陵高校の考古学グループの奉仕作業で、多くの資料が得られたが、これは市の文化資料館に所蔵と決定した。

そして、この古墳群のあった所の近くに、石の記念碑を建てることが、見上教育委員長と東急との話し合いで決まり、そのための出土品の砂利も市教委に保存されている。

短歌

鳥生喜志代

つかの間のひとときせめぐり賀状書くこの書ける日を幸とせむ

吾等二人今年も手分けして賀状書く此の平穏よいついつまでも

隣の名知らぬ小鳥が今巣立ち吾庭の梅もどきに二羽とまり啼く

次々と煮豆口取り出来上り重に並べて年越し祝ふ

歌はうまくなるより長くつづけよの師のみ言葉吾身にせまる

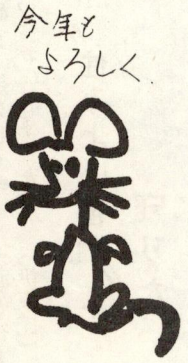
久々に雨上る今朝の庭緑きほい咲く花々のいろさゆる

招きたる客を待つ間の一刻を庭の植木に水そそぎをり

久々に餌まきやるに金魚らは人おぢするらし水にもぐりつ

成年式日の昼下り盛装の若人巷にあふれ壮観ともたのもし

人生は貧富貴賤の別なく皆消えむ宇宙はかくも悠久なるに



建設的な意見を基に進めたい

自治会顧問
市議会副議長　亀井隆義

会員の皆様、一九七二年の輝かしい新春を、お健やかに迎えられ、心からお喜び申しあげます。

「香川」という地名ひとつにも、古来からの伝統があり、「清らかな川のほとりにあったのどかな村」という意味から、人情のこまやかな誇り高い所として、今日まで受けつがれてきました。

昭和に入っても、草ぶきの家が多かったこの地も、首都圏という異様な広がりをまともにうけて、一五九一戸、五九一〇人（市統計時報11月）を数え、更に東急団地の入居がこの秋から見込まれ、都市化の姿を濃くします。

念願の市立保育所も、この四月からオープンします。

市当局の配慮を感謝するとともに、都市化に見合った道路・下水など、社会資本の充実が更に必要と思います。

今年は何から手をつけてゆくべきか、そしてどのように市当局などに反映し、実現させるかを、会員皆様がたの建設的な御意見をもとに進めたいと考えます。

今年も香川の全家庭の方々にとって、充実したよい年であるようにお祈りして、年頭の御挨拶といたします。

謹賀新年　本年もどうぞ御愛顧のほどを！

こし石
丸徳商店
川口屋支店
内田履物店
三河屋菓子店
金子薬局
小坪屋米店
イサミヤ酒店
山口屋食品店
田中文具店
板倉金物店
カバヤ寝具店
香川屋菓子店
西野酒店
カンナ糸店
尾島酒店
香川プロパン
たかぎ薬局
香川クリーニング
中華一番
よしみや
魚賢
宮代肉店
大野屋菓子店
坪田輪業
香川電機
熊沢屋酒店
鈴木薬局
みやしろ商店
ショコーストア
八城商店
ミヤマ洋品店
名糖牛乳香川販売店

インタビュー

縁起物のワラの宝船を趣味で作り好評を博す

新倉億太郎氏夫妻

今回は十二月十六日（木）の神奈川新聞に「福の神を招く、ワラで編んだ宝船、素朴な手づくりの味」という見出しで紹介された、北町二三六九農業新倉億太郎さんと、妻ふささんを訪問した。

億太郎氏は元香川自治会長を二期勤め、香川発展のために数々の功績をのこされたが、農業の方面でも苺栽培を真先に始めたり、花の栽培やハウスきゅうりの栽培など品種改良や時代に先がけて新しい営農法をとりいれたりして、生産組合の発展にも多大の貢献をしておられる篤農家である。

今回報道された宝船も、氏の考案した特許もので、寒川神社をはじめ各方面で好評を博しているという。

〔宝船をもって仲よく並ぶ新倉夫婦〕

(1)宝船を考案された動機は？

子供の時にお正月になると父がワラで鯛を作り、ダイダイやウラジロをつけて床の間に飾った記憶をたどり、歳の市などで売っている縁起物を見てヒントを得、七・八年前から宝船を工夫しだした。手先仕事が好きなので、老人の余技として趣味的に作りだした。

(2)一隻作るのにどの位時間がかかりますか？

帆を作るものは帆ばかり、底を作るものは底ばかりと分業でやっているので、どのくらいとはいえない。けれども結構時間がかかる

(3)どこが特許だと思いますか？

シメナワ形式の方法をとりいれ二人がかりでよじるようにして船型を作るのだが、滑らかでつやがあって、ワラ製品に見えないようによじってあるのが特色だと思う

(4)材料はいつ頃から準備しますか？

材料はモチ米のワラで、稲の穂が育たない八月末に刈りとってしまう。ワラの新鮮な青さを保たせるため、乾燥に注意し、ワラゴミ落としも機械を使わず、すべて手で慎重にする。付属品の扇・恵比寿・大黒・松竹梅・鶴などは、船橋市内の専門の卸し問屋に注文し自動車で運んでもらう。初めはそんなに飾り物もつけなかったが、年々あれこれ色彩の調和を考えながら、たくさんつけるようになり、豪華になってきた。

(5)三百隻作るそうですが……

今年はそんなにはできなかった。やはり天候に左右されて、ワラのできがよくなかったので……。

(6)どういう方面に売るのですか

商売にやっているわけではないので、ほしい方があれば誰にでもお譲りします。例年寒川神社から注文があるのでお届します。お正月の参拝客などが売店で求めていくようです。その他商店、料理屋・建築関係者などにも、希望者にはお譲りしています。まさか、「いかがですか」などと、戸別に売りに行くわけにはいきません。趣味で作っているのですから……。

(7)御子息さんがあとを継いでゆかれるわけですね。

さあ、どうだか。多分やるだろうと思います。毎年九月になると宝船作りが始まり、十二月までずっと作り続けます。一日八時間、土間に坐りっぱなしで、仕事にかかったら休みません。帆に押す「宝」の木版も、自分で彫ったものです。

(8)大分あちこちで好評のようですね。

ええ。先日も新聞で読んだので是非譲ってほしいと、わざわざ大和から見えた人がありました。

趣味と実益を兼ね、最上の健康法でもある一石数鳥の宝船は、物置に所狭しとうず高く並べられ、〝晴れの首途〟を待つばかりだった。宝船を持ってカメラに向う老夫婦も、高砂の翁のように福徳円満で、幾久しく幸あれかしと祈りつつおいとました。（伊東記）

〝住みよい香川〟を守りたい

木村すみ子

私共が当地のお世話になりまして、はや十年になります。

当時は見渡すかぎり青々とした田圃で、その中に私の家がぽつんと一軒、寒々と建って居りました。その頃の香川は、聖恵幼児園の一角と、原の市営住宅附近にまとまって家があるだけで、あとは点々と存在しているだけでした。学校もなく近くに大分荒れ果てた分校があるだけでした。

都会に育った私は、何ともいいようのない淋しい気持で、毎日涙の出る思いでしたが、十年一昔、今は鉄筋の小学校もでき、きれいな家がたくさん建ち、近くには大きな団地ができ、東急の住宅も現在造成中、香川も日ましに発展しつつあります。

しかしまだまだ空はまばゆいばかりに澄みわたり、空気の汚染や騒がれるほどの公害もなく、冬の田には白鷺が舞い降り、真白な雪を被った富士の秀峰を近々と仰ぎみることができます。

あのように嫌った所でしたのに今は東京の実家に行きましても、さっさと帰ってきて、香川の駅に着きますとほっとします。

住めば都と申しますが、香川に住みましたことをつくづく感謝しております。

先日も友に会うと、「顔色が良く健康そうね、それに何よりものんきね。あなたと話していると、命が洗濯されるようよ。」などといって笑われてしまいました。

友だちの顔色は直射日光にあたらないせいか、青白く見えました。東京のような所にいると、知らず知らずのうちに気ぜわしくなり、他人様のことなど頭になく、自分本意になり、人間本来の姿とかけ離れた生活を余儀なくされています。

夜の来るのは二時三時、一晩中自動車の騒音、ライトの閃光、到底人間の住める所ではありません。高度生長、高度生長と煽りたて、世界一の人口密度の高い都市になり、今になって人間は自然に帰らねばならぬなどと、勝手なことをいっています。

新聞でいろいろな公害を騒がれない日は、一日もありません。

川崎市で公害のため、空気汚染でぜんそくになり、命を失った方とか、毎日の交通事故のいたましいぎせい者を見聞するにつけても、先見の目を持ち、香川の地を選んで住んだことを幸に思うとともに、今後何年、いや何十年かわかりませんが、生きているかぎり自然の姿を残した、住みよい香川を地域の皆様方と共に守って行けたらと思っております。

編集後記

明けましておめでとうございます。皆様お揃いで、よいお年をお迎えのことと存じます。

今月号は新年そうそうに刊行しようと、十二月二十四日に出稿しました。そのために御寄稿の方々に時間的余裕がなく、御無理を申しあげたことを深くおわびいたします。任期まであと二カ月、最後まで頑張って重任を果たしたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申しあげます。

（伊東　記）

茅花会

生き甲斐をお花の師匠水仙花　大胡　悦子

捨て犬のからだ寄せ合う夜寒かな

立ちまする母の姿や夕ともし

老犬の日向恋しき寒の入り

老ゆたか晩年の夢一人族

病める身になお早春の空遠し

出稽古や銀杏散りしく今朝の霜

老松に薄化粧する朝の霜　硲　百合子

正月や子無き朝湯のたんねんに

初雀弾みやまぬよ旅にいて

福寿草耐えきし母の美しく　長島　久江

横文字もところどころに子の賀状

碁がたきや送り送られ三ガ日

療養の枕辺小さき鏡餅　亀井　とみ

親になり新巻嬉し歳暮かな

一月投吟集

初詣で神の森より鳥とび

年賀状無沙汰わびつつ交深め

新玉の年の始めの金のちょこ　沓沢　みや

初富士や増築二階広々と

福寿草つぼみふくらむ午後の部屋

シクラメン頷優しき娘と成りぬ　藤村　球子

頬赤きセーターの子に逢い甲斐に入る

風花や湖を背に建つ鎮魂碑（西湖）

石垣に陽が置き去りし冬すみれ

突っ走る成田街道師走の雨

冬の蚊の吹かれて落ちる瓶の底　間庭　蘇山

北斗星傾く山は凍てて伏す

悔いもなく此の一とせをふり返る

老いの坂又一とせの日記閉づ

走馬灯回り回りて年暮るる

霜除けの植木を庇う老い心　柳田ふじ子

過ぎし事交々語り忘年会（12月）

思い出す歌の数々忘年会

忘年会わが思うこと人に告げ　亀井　湘南

とそ汲むや八十年は夢の如

三ガ日猫の膳にも花かつお

初夢を語らんとして忘れけり

追いばねや風をさけたる袋路地

何もかも縁起言葉や老いの春　井上　喜枝

初空を飛ぶ鳥賀正と鳴いていく

南天の赤く冴えたり峯は白　斎藤　ハツ

宝くじ

夢を買ふ列に面はゆく並びけり

忙中閑球根に土を盛る

枯野道新家並びて陽を集め